

⑤「あいさつ」:お金のかからない魔法の言葉

2024/12/3

白子隆志

朝「おはよう」、昼「こんにちは」、夜「こんばんは」は、あいさつの定番です。「おはよう」と声をかけるのは、知った仲間であれば全然気になりませんが、知らない人だったりすると「日本」ではなんとなく気が引けますよね。

1996年にアメリカのニューヨーク州バッファロー(ナイアガラの滝の近く)で1年間暮らした時のこと。全く知らない人と歩道を歩いていてすれ違うと、「ハイ」、「ハロー」といって笑顔を交わしていました。アメリカは何となく治安が悪くて、知らない人と声を交わすなんてと思っていた自分は、ある意味カルチャーショックを受けたのです。ニューヨークに全米オープンテニスを観に行った時に、チケット売り場で並んでいたまったく知らない女性にも「ハイ、ママ」と言って声をかけ、チケットの買い方など色々聞くことができました。現在アメリカでは、トランプさんが大統領に返り咲いて「不法移民を追い出す」と言っていますが、多民族国家、特に英語もわからない人たちが多いアメリカでは、日本より「助け合い」「ボランティア」の精神を身近に感じました。

バッファロー郊外の住んでいた家の近くの会員制テニスクラブに入会した時も、おじいちゃん・おばあちゃんたちが必ず寄ってきてくれて色々世話を焼いてくれました。今思えば、自分も若かった(日本人は実年齢より若く見られる)こともあり、年配の人達にかわいがってもらえたのかもしれない。あの頃はスマホ(携帯電話)も持っておらず連絡が大変だったのですが、固定電話や口伝えでテニスの試合をする友達を紹介してくれ、テニス仲間がどんどん増えました。スマホでラインやメールができる今だったらもっと便利だったろうなと思います。

心を込めた「あいさつ」と「笑顔」。これで気分を害することは世界中ないと思います。アフリカの奥地ウガンダ(ハバリ・ジャンボ)でもアフガニスタン(アサラム・アレイクム)でも、「あいさつ」と「笑顔」で現地のスタッフや患者さんたちと仲良くなれました。国際医療救援を含め、英語が苦手であった自分が国際チームの中で何とかやれた「コツ」だと確信しています。

「あいさつ」と「笑顔」はお金のかからない「万国共通のコミュニケーション」「職場で仕事をうまくこなす」術かもしれません。勇気をもって自分から「挨拶」をしてみませんか！



ウガンダ・カロongo病院手術室



NY州 バッファロー



NY USオープンテニス



アフガニスタンの医師たち